

授業デザイン FIRST STEP Vol.2 一小学校図画工作科「見通し」編



1 図画工作科における「見通し」とは？

児童に必要な見通しは大きく分けて次の2つが考えられます。

- ・**題材の見通し**…「活動」や「作品」、「題材の終末」を想像する。
- ・**時間の見通し**…「どのくらいの時間が必要で、いつまでにどのくらい進めばよいか」という過程を考える。



2 児童が見通しをもつためのポイント


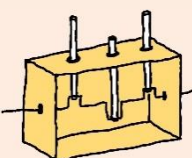
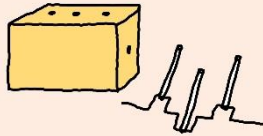
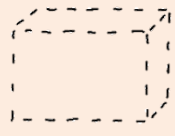
(1) 活動の説明について

見通しをもつ際に、児童が「やってみたいけどできるかな。」「できそうだけど、なかなか思うようにできないな。」など適度な抵抗感をもつことが必要です。その抵抗感が、新たな課題を生み、追究する力となります。活動について全てを話すのではなく、児童の「やってみたい。」という意欲を引き出すことを念頭において、導入の内容を吟味しましょう。

(2) 参考作品の提示について

教師が参考となる作品を提示することは、児童が作品に対して見通しをもつことができるようにするために有効です。題材や教師の意図によって、何を提示するかを考えましょう。

※イラストは、クランクの仕組みを使った工作の題材の例

完成形を提示する	未完成的な状態を提示する	部品や一部を提示する	何も提示しない
 <p>制作から完成までのイメージをもつことができる。</p>	 <p>制作のイメージをもち、完成形への発想を広げることができる。</p>	 <p>仕組みや動きに着目しながら、制作のイメージをもつことができる。</p>	 <p>自分の発想を大切にし、つくりだす喜びをより強く感じることができる。</p>

(3) 題材の終末について

題材の終末における活動を示すことで、児童の制作に対する意識は変化します。例えば「展示会を開く」と設定すると、作品を鑑賞する人がいるという相手意識をもちます。また、「作ったものを使って友達と遊ぶ」と設定すると、正確に動くようにしたり壊れないように頑丈にしたりしようとするなど、制作に対する意識の変化につながることが期待できます。

(4) 時間配分や流れについて

題材全体で何時間活動するのか、題材全体の見通しについて提示しましょう。主に絵や立体、工作に表す題材では、「考える時間」「試す時間」「つくる時間」「見直す時間」など、大まかな時間配分を整理して提示することで、児童の主体的な活動につながります。また、児童が計画的に活動を進めることができるように、提示したものは板書や掲示物にして残しておくことが大切です。